

名取市海岸林再生の会・公益財団法人オイスカ



自ら生産しているクロマツ苗木状況



地域住民によるクロマツ苗木出荷準備



植樹祭参加者530名 10・20代が3割参加



石破・谷衆議院議員も植樹に参加



名取北高生徒100名植樹祭参加



平成26, 27年度植栽地生育状況（令和元年撮影）

（公財）オイスカと名取市海岸林再生の会は「海岸林再生10ヵ年計画」を立ち上げ、寄せられた寄付金により、植栽に使用する苗木についても、自ら生産を行なうとともに被災した地域住民の雇用も積極的に行なっています。

また、延べ11,000名以上のボランティアの方々が参加して育林活動に努めています。

海岸林再生プロジェクト 第2次10ヵ年計画（2011 - 2023年）実績

【11のシステムを実行中】

1. 官民協働の大規模協定（県内海岸林復旧対象約1,100haのうち名取市全長5km・103.05ha）
2. 大規模苗木供給体制（宮城県内必要本数600万本中、生産実績約40万本を実施した）
3. 地元に雇用創出（総雇用数10,412人）
4. 効率的な一貫施業（育苗～植栽～育林を一体管理）
5. 低コスト林業（自家生産の優良苗植栽で、購入より低コストと、99.2%の高生育率を証明した）
6. 本数調整伐の着手（全国海岸林で初の本格的な本数調整伐。植栽7年後の2022年1月開始）
7. 専門家との調査協働（人工盛土の海岸防災林造成経過など森林総研・名古屋大院他と知見を残す）
8. 市民参加の実現（8時間ボランティア累計14,024人・リピート率5割。プロとともに無事故継続）
9. 情報公開・報告責任（活動報告会294回・44,258人、HPブログ更新2,758日、メディア313回）
10. 民間活力・民間資金導入（民間寄附金・助成金のみによる事業。寄附総額約9.3億円）
11. 海外からの政府・NGO職員など視察・研修受入（64カ国・295名）

【今後の見通し】

第3次10ヵ年計画貫徹を目標に育林継続中。年間1,300名の8時間従事ボランティア参加を得て、徹底的に葛の刈り取りを継続。2021年度より本数調整伐を開始。2023年度末で協定区内65%の1回目の伐採完了（伐採木はチップ・堆肥・バイオマス発電などに100%再利用）。今後も下刈、排水溝修復・増設、葛などの刈り取り・除伐、本数調整伐（間伐）、作業道維持管理、生長モニタリング・本数調整伐調査、マツクイムシ等被害防止対策、定期巡視、各種啓発活動等を継続。



左から2011年9月（倒伏マツ）、2013年9月（植栽基盤盛土完成）、2014年4月（初植栽の様相）



左から2015年5月（植栽1年後）、2016年5月（植栽2年後）、2019年9月（植栽5年半後）



左から2022年11月のボランティア、2024年1月（植栽10年後・間伐済）・同時期撮影のフクロウ